



小菅市議 3点について質問しました

13日の一般質問で、待機児童対策、こども誰でも通園制度など3点について質問しました。

定例議会
一般質問

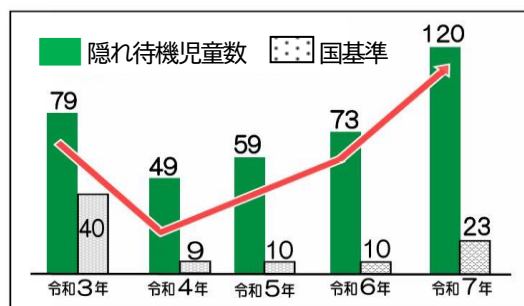
写真は市議会ホームページから（6月13日）本会議

急増する待機児童の解消を

保育士の処遇改善、認可保育所の整備など抜本対策を

今年4月1日現在の保育所・子ども園の待機児童数は国基準で23人（隠れ待機児童数は120名）で昨年比で急増しています。その結果、「兄弟姉妹」で異なる園に通う児童は51名にも及んでいます。

小菅市議は、①待機児童増加の要因は保育士不足であり、保育士確保へ近隣市よりも低い処遇の改善を行うべき。②1～2歳児の待機児童が多く、小規模保育事業は必ずしも解消に繋がっておらず、0～5歳児までの認可保育所の整備が必要である、と求めました。



年齢別の待機児童	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
	3人	4人	14人	2人	—	—

親の就労を問わず、月10時間を上限に保育所や子ども園で保育サービスを利用できる「こども誰でも通園制度」が野洲市でも実施されます。

制度そのものは子育てに不安をもつ保護者にと

対象年齢	生後6か月～3歳未満の未就園児
実施場所	保育所・子ども園、小規模保育所等が実施
利用時間	月上限10時間（時間単位で複数回利用可能）
利用料金	1時間300円程度（自治体が条例で定める）

って朗報ですが、①国が示す保育士配置は2分の1は保育士資格がなくてもいいとしています。しかし通園制度は、生後6カ月から2歳までが対象で、人見知りの激しい時期に、月1～2回・最高10時間の保育であり、安全・安心の保育が保障できるのか危惧されます。

小菅市議は、「それだけでなくとも保育士不足であり、通園制度実施に際し、保育条件の整備が最優先」と求めました。

「こども誰でも通園制度」が実施されますが

保育環境の整備が最優先です

安全なりチウムイオン電池回収を

使用済みのリチウムイオン電池の適正な処理を国は示してきませんでしたが、今年4月15日、「市町村で分別回収すること」の通知をしました。

これにより野洲市でも今年5月から市役所・環境課でリチウムイオン電池の回収が実施されました。火災・爆発の危険があるリチウムイオン電池で安全な回収が求められますが、野洲市の場合

は市役所（勤務時間中）の1カ所だけです。

小菅市議は、「危険なりチウムイオン電池の周知とともに、身近な場所で回収ができるように、各学区毎に1カ所設置すること」を求めました。

5月1日より、モバイルバッテリー等充電式電池の回収を環境課窓口（開庁時間内）で実施しています。



衆議院議員

辰己コータロー
お話しします

日本共産党街頭演説会

6月22日（日）午後2時・草津駅東口

参院選直前の演説会です。佐藤こうへいもお話ししますご参加ください

やす民報

日本共産党野洲市委員会
2026年6月22日 No.590

市政・市議会へ
ご意見ご要望を
お寄せください

小菅康子 比江 668-3 （電話・FAX）589-4971
工藤義明 小篠原 879 （電話・FAX）588-1856
野並享子 北野 1-7-10 （電話・FAX）587-0985
東郷正明 比江 864 （電話・FAX）589-4158

日本共産党野洲市委員会が見解を発表しましたのでお知らせします

ホームページをご覧ください

共産党野洲市議員 検索